

令和3年度  
道徳教育振興だより

滋賀の子どもたちにこころの元気を



道徳科を要とした 道徳教育の充実

令和4年3月 滋賀県教育委員会

# 刊行に寄せて

滋賀県教育委員会事務局 幼小中教育課長 村田 耕一

各学校では、平成31年度から「第Ⅱ期学ぶ力向上滋賀プラン」に基づき、道徳科の授業を中心として、子どもたちの豊かな心を育む取組を進めていただいております。視点1の「学びを実感できる授業づくり」については、「考え、議論する」という道徳での授業の視点を大切に、すべての教科等において展開、発展させていただくものです。また、視点2の「学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり」については、具体的な取組例に「思いやりの心を育む道徳教育の推進」が例示されており、違いを認め合い、信頼し合える集団づくりは、視点1の授業づくりの土台となるものと考えております。また、視点3の「子どものために一丸となって取り組む学校づくり」については、校長先生のリーダーシップのもと、学校としての課題解決に向けて担当教員を中心に全教員で組織的に取り組むという点で、道徳教育をはじめ、様々な教育活動において、充実が求められているところです。

「令和3年度 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の各推進校においては、道徳教育の充実、道徳科の授業づくりを「学ぶ力向上策」の中心に据え、実践を重ねてこられました。本冊子には、その成果を掲載しています。

各学校におかれましては、ここに挙げた事例を参考にさせていただきながら、子どもたちの心の教育の充実を図るため、組織的な道徳教育の推進に努めていただければと存じます。また、本冊子の事例が、学校はもとより、家庭、地域社会における道徳教育推進のために御活用いただければ幸いです。

## 目 次

□刊行に寄せて	幼小中教育課	課長 村田 耕一	
●コロナ禍を生きる、きみへ	滋賀県道徳教育推進協議会	会長 押谷 由夫	1
●各発達段階における道徳教育の方向性や目標			4
●道徳教育の多様な展開			5
●道徳教育の取組			
・東近江市立あかね幼稚園 「道徳性の芽生えを育む工夫」			6
・湖南市立菩提寺小学校 「児童の内面的資質を高める指導方法の工夫」			7
・高島市立マキノ中学校区 「ねらいに応じた多様な指導方法の工夫」			8・9
・草津市立玉川小学校 「道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実の工夫」			10
・草津市立新堂中学校 「問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導の工夫」			11
・湖南市立甲西北中学校 「ICT機器を効果的に活用した指導の工夫」			12
・滋賀県立大津高等学校 「体験を生かした指導の工夫」			13
●推進地域・PTAの取組			14・15
●社会教育・企業の取組			16
●第1回道徳教育パワーアップ研究協議会			17
●認め励ます評価のための学習の見取りと指導の工夫（滋賀県小・中学校教育研究会道徳部会）			18・19
●学校・家庭・地域社会で豊かな心を育む（道徳教育推進協議会）			20
●資料 滋賀県道徳教材「近江の心」（小学校版・中学校版）			21

### 表紙について

#### 題名「気球に乗ってどこまでも」（第68回滋賀県教育美術展 特選）

私が気球に乗って行ってみたいと思った町の絵をかきました。ここは、明るくてやさしい人や動物たちが住んでいて、楽しい町です。この町で、たくさん子どもたちといっしょに気球に乗りたいです。

愛荘町立秦荘西小学校 3年 上田 雫 さん

# か コロナ禍を生きる、きみへ

— 新しい生き方と社会を創<sup>つく</sup>っていくのはきみたち一人一人 —

押谷 由夫

コロナ禍の中、日々の生活はどうだろう

手洗い、うがい、マスク、3密をさける  
授業や学校行事、クラブ活動などの制限  
土曜、日曜、休日にも自由に行動できない  
家庭でも特に祖父母と自由にかかわれない  
すべてにおいて、日常生活が制限される

このようなことを、きみはどのように思うだろう

いらいらするけどしかたがない  
しんぼうするしかない  
言われるままにしていよう  
できるだけじっとしていよう  
さみしいしむなしくなる

そのように思う「自分と今」を見つめてみよう

今のきみは受け身的になっていないか  
どんな状態でも時間は確実に過ぎていく  
かけがえのない一日一日  
その一日一日をどう過ごすか  
それがきみの未来を創っていくことはまちがいない

どうすればいいのか

それを考えるのがきみにとっての道徳教育なのだ  
コロナ禍では自分には関係ないは許されない  
まず自分はどうすればよいかを考えること  
そしてみんなと仲よく楽しく過ごすにはどうすればよいか  
そのことを真剣に考え新しい自分と社会を創っていく

そう！ コロナ禍を生きるきみたち一人一人が  
新しい生き方と新しい社会を創っていく主人公なのだ

# コロナ禍をどう生きるかを一緒に考えてみましょう

冒頭に掲げたメッセージは、私たちの共通の願いです。では、コロナ禍において、具体的にどのように新しい生き方と新しい社会を追い求めていけばよいのでしょうか。一緒に考えてみましょう。

## 1 自分はどう生きるかー「自己を見つめる」ー

### (1) 自分を律することは自分自身の主人公になることー「なりたい自分」との対話ー

道徳教育は、私たち一人一人が「人間として自分らしくどう生きるか」を考え追いかけていくことです。どう生きるかを考えることは、「自分を律する」こととかわりません。「自分を律する」というと難しそうですが、要は「自分自身の主人公になる」ということです。

分かりやすく言えば、「自分自身と約束をし、それを守ろうとすること」だといえます。そのためには、自分の心の中に「もう一人の自分」を想定する必要があります。それは、「なりたい自分」です。

### (2) 「なりたい自分」と「ならされる自分」との葛藤

「なりたい自分」をどのように考えるか。小さいころであれば、親や先生の言うとおりにすることが「なりたい自分」でもあります。だんだんと自分で考える力がついてくると、「どうしてそのようにしなければいけないの」と疑問をもつようになります。そこから本当の意味での「なりたい自分」との対話が可能になります。

その中で、「なりたい自分」と、「ならされる自分」との葛藤が生じます。こうなりたいと思っても、それはダメだと拒否されたり、こうなさいと押し付けられたりすることもあります。それらに、どう対応するか。そのことは、自分との対話を主体的にするかどうかのポイントとなります。強制されたり、押し付けられたりしていることに対しては、自分との対話は受け身的になります。

### (3) コロナ禍での自律

このことをコロナ禍の中で考えてみましょう。様々な規制が、外部から強制されています。それをどのようにとらえているでしょうか。自分と関係なく強制されているととらえれば、「なりたい自分」との対話ではなく「ならされる自分」との対話になり、自律へとは向かいません。

#### ① いのちとの対話

どうすればよいのでしょうか。要は、「なりたい自分」との対話を深められるようにすることです。そのためには、なぜそのようなことが求められるのかを問いかけます。コロナ禍がなぜこんなに深刻になっているかと言えば、人間として生きる最も根源にあるいのちと密接にかかわるからです。私は関係ない、は許されません。誰もが、いのちの危機に直面しているのです。このような状況においてこそ、実感を伴って、いのちの大切さを自覚することができます。道徳の授業だけではなく、友達同士でも家庭でも、日常的に取り上げ話し合えるようにしていく必要があります。

#### ② 最新の情報を活用する

いのちの大切さの自覚から、コロナ禍で求められていることを「なりたい自分」とのかかわりでとらえられるようになって、それだけでは納得できないことが出てきます。具体的な行動が求められているからです。理念は共有化できても具体的対応や行動は多様であるべきです。しかし、コロナ禍では、一定の行動や生活が強制的に求められます。なぜそのことをしなければならぬのか、について納得のいく理解が必要です。それは、最新の信頼できる情報です。コロナ禍においては、道徳の授業においても、最新の信頼できる情報を活用しながら、自分のいのちを守るために何が大切かを考えられるようにする必要があります。そして、求められる規制や生活を「なりたい自分」の中に位置づけ、そのような「なりたい自分」との対話を深めて、新しい行動様式や生活様式を自分のものとして身に付けられるようにする必要があります。道徳の授業を要として、日常生活や様々な学習活動や家庭、地域においても、情報の提供や様々な

投げかけが大切です。コロナ禍においてこそ、一丸となって取り組むことができます。

### ③ 自分のいのちを守ることは周りの人々のいのちを守ることでもある

コロナ禍において自分のいのちを守ることは、同時に、周りの人々のいのちを守ることにもなることを自覚することが大切です。自分が感染することでどうなるでしょう。周りの人々、特に自分をかわいがってくれる人々、お世話になっている人々に感染します。自分のいのちを守ることは、自分だけの課題ではなく、周りの人々へも大きな影響を与えます。このことも、具体的な情報を基に考えることによって、自覚をより深めることができます。

### ④ どう行動すべきかを多様に考える

さらに大切なのは、どう行動するかをより多様に考えることです。どうすれば自分のいのちが守れるのか、どうすれば周りの人に感染しないようにできるのか、という視点から、どう行動するかを考えます。その際、信頼できる最新の情報を基に、現在求められている行動様式や生活様式を検討すると同時に、さらに新しい行動様式や生活様式を工夫できないかを考えます。それを、これから創っていく新しい社会の行動様式や生活様式へとつなげていくのです。そのためには、「特別の教科 道徳」を要として、学級活動や日常生活、家庭、地域と密接に関連をもたせた道徳学習プログラムの開発が必要です。

## 2 自分たちはどう生きるかー「自分たちを見つめる」ー

道徳教育は、自律が基本であり、「自己を見つめる」ことが大切であることを述べてきました。そのことを、もう一つの視点で考える必要があります。自律の意識を、みんなと一緒にあってよりよい社会を創っていくということと結びつけることが重要だからです。コロナ禍における道徳教育においては、いっそう考慮する必要があります。

もう一つの視点とは、「自分たちを見つめる」ことです。例えば、道徳の授業で、特定の個人の生き方に焦点化するだけでなく、その周りにいる人々の生き方にも焦点化して考えられるようにします。そのことによって、どのような社会を創っていこうとしているのかがより明確になります。それは、一人一人が大切にされ、かかわり合い、協力し合って創っていく社会、つまり共生社会です。

しかし、「自分たちはどう生きるか」を強調しすぎると、相互の監視を強めたり、強制的になったりしかねません。「自分たちはどう生きるか」を考えた後、「その中で自分はどう生きるか」、「もしこのような人の立場であったらどう生きるか」といったような立場の人々の生き方を考えるのです。そして、「自分たちが求める社会をどう創っていくか」を具体的に考え取り組む必要があります。「特別の教科 道徳」を要として、総合的な学習の時間や特別活動、関連する教科や日常生活、家庭や地域での生活とかかわらせて、学びを進展させられる総合単元的な道徳学習プログラムを開発し、取り組むことが求められます。

## 3 未来への夢、希望をはぐくむ

道徳教育は、道徳的な事象や状況を道徳的価値に照らして多面的・多角的に考えられるように取り組みます。そのとき、道徳的な事象や状況そのものが厳しい状況にあるとき、よりよい自分や社会を創っていくことに向かわず、あきらめや嫌悪感を強めていくようになることも考えられます。コロナ禍においては、そのことをいっそう考慮する必要があります。

そのためには、困難な状況においてもくじけず夢を追い求め実現していった人々を取り上げ、その生き方から何を学ぶかを話し合い、自分の生き方や自分たちの生き方を切り拓いていけるようにすることが求められます。コロナ禍での体験を生かしていくことによって、これからの Society5.0 社会が求める真の「経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」を、創っていくように思えてなりません。子どもたち一人一人が、「これからの社会を創っていくのは、コロナ禍を生きている自分たちである」ことを自覚し、未来に夢と希望をもって、明るく元気に力を合わせて、生きてほしいのです。

# 各発達段階における道德教育の方向性や目標



校種間の連携を意識しながら、各発達段階における取組を充実させることが重要です。

第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道德 第1)

特別の教科 道德の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(小学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道德 第1)

小学校



幼児教育



道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し、人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とすること。

(高等学校学習指導要領 第1章 総則 第1款2の(2))

高等学校

中学校



道德教育の目標

道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とすること。

(中学校学習指導要領 第1章 総則 第1の2の(2))

道德教育の目標

道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とすること。

(小学校学習指導要領 第1章 総則 第1の2の(2))

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」より

## 4) 道德性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(幼稚園教育要領 第1章 総則 第2の3の(4))

# 道徳教育の多様な展開



道徳教育を充実させるため、次に示す内容が重要なポイントになります。

## 1 道徳性の芽生えを育む工夫

道徳性の芽生えを培うにあたっては、幼児が他の幼児とのかかわりの中で他人の存在に気づき、相手を尊重する気持ちをもって行動することができるようにすること、特に人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきを体験し、それらを乗り越えることで次第に芽生えてくることに配慮することが大切です。

### 実践 1

東近江市立あかね幼稚園  
(6ページ)

## 2 児童の内面的資質を高める指導方法の工夫

道徳科の指導の目指すものは、個々の道徳的行為や日常生活の問題処理に終わるものではなく、児童自らが時と場に応じて望ましい行動がとれるような内面的資質を高めることにあります。そのため、児童が道徳的価値を自覚できるよう指導方法の工夫に努めることが大切です。

### 実践 2

湖南省立菩提寺小学校  
(7ページ)

## 3 ねらいに応じた多様な指導方法の工夫

道徳科の指導方法の工夫の視点としては、教材提示、発問、話し合いや書く活動、役割演技等の表現活動、また、板書や説話等が挙げられます。教師自らが多様な指導方法を理解し、児童生徒の発達段階を捉え、指導方法を吟味した上で生かすことが大切です。

### 実践 3

高島市立マキノ中学校区  
(マキノ中・マキノ東小・  
マキノ西小・マキノ南小)  
(8, 9ページ)

## 4 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実の工夫

道徳科の時間の指導を計画的に推進し、授業を魅力的なものとして効果を上げるためには、校長の方針のもとに学校の全教師が協力しながら取組を進めていくことが大切です。道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実を図り、他の教師との協力的指導、保護者や地域の人々の参加や協力が得られるよう工夫することが大切です。

### 実践 4

草津市立玉川小学校  
(10ページ)

## 5 問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導の工夫

道徳的価値に根差した問題に対して、生徒が、道徳的諸価値について自己を見つめ、多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合う、問題解決的な学習は有効です。指導方法の工夫を考える際、指導の意図に即して、取り入れられる手法が適切かどうかをしっかりと吟味することが大切です。

### 実践 5

草津市立新堂中学校  
(11ページ)

## 6 ICT機器を効果的に活用した指導の工夫

1人1台端末をはじめとするICT機器の活用にあたっては、道徳科の目標(中学校)に示されている「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習」が、より効果的に行われるようにするための手段として活用することが大切です。



### 実践 6

湖南省立甲西北中学校  
(12ページ)

## 7 体験を生かした指導の工夫

学校の教育活動や日常生活における様々な体験の中で、生徒は、道徳的価値に触れ、自分との関わりで感じたり考えたりしています。道徳教育においては、生徒が日常の体験やそのときの考え方や感じ方を活かして道徳的価値の理解を深めたり、自己を見つめたりできるよう指導を工夫することが大切です。

### 実践 7

滋賀県立大津高等学校  
(13ページ)

## 実践1 道徳性の芽生えを育む工夫

東近江市立あかね幼稚園 <<http://www.city.higashiomi.shiga.jp/0000009183.html>>



乳幼児期の教育および保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う。それは環境を通して行うものであり、遊びを通して総合的に指導するものである。また、一人ひとりの特性や発達に応じて課題に即した指導が必要になる。道徳性の芽生えは領域「人間関係」と関連が深いが、活動全体を通して育まれることに留意が必要である。

### 事例1

#### 自己主張のぶつかり合いから葛藤、さらに相互理解へ

「だってな」

A 児 「B君がたたかあった。」

保育者 「それは痛かったなあ。B君、A君痛かったって。」

B 児 「……………」

保育者 「A君、B君はなんでたたかあったのかなあ。」

A 児 「わからへん。Aは何もしてへんで。」

B 児 「だってな、ぼくも使いたかったねん。」

保育者 「そうなんだ。B君も嫌やったね。貸してって言ったらよかったなあ。」

B 児 「うん。A君、ごめんね。」

A 児 「いいよ。もうたたかんといてな。」



手を出してしまったB児の内面を理解しA児に伝え、双方の気持ちに共感しながら仲介した。保育者は、自分の行動を振り返り納得して折り合いが付けられるように問いかけたり、共に考えたりし、子どもが自分たちで思いを伝え合おうとする姿を十分に認め、支えていく。遊びや生活の中で、子ども同士の気持ちのぶつかり合いや、楽しく遊びたいのにうまくいかないといった思いが生じた場面を捉えて、適切な援助を行うことが必要である。

### 事例2

#### 自然や身近な動植物に親しみ、豊かな心情を育てる

「里山保育」船岡山での体験

- ① 船岡山の生き物たちの楽しい話や危険への対処を学んでから出かける。（映像を通して）
- ② 季節や場所ごとにたくさんの発見を楽しむ。（ポイントカードを持って）
- ③ 船岡山探検を友だちや家族と一緒に楽しみながら活動することで地域の自然の価値を心に刻む。

身近な自然の美しさに触れ、地域やその自然を大切に思う価値観を育てることにより、地域への愛着心が育まれる。また、身近な動植物に親しみ、世話をする中で、いのちあるものへの感性や弱いものをいたわる気持ちなど、豊かな心情を育てることも必要である。



## 成果と課題（○成果・★課題）

- 保育者は、子ども同士のトラブルの際、手を出してしまった結果に注目しすぎず、子どもの心情に寄り添い、自らが振り返り、折り合いを付けられるように関わることができるようになってきた。
- 里山保育の機会を子どもは心待ちにするようになり、保護者も自然への目の向け方が変わり、子どもの発見に耳を傾けるようになった。親子で自分の住む地域にある自然環境に気付いたり、好きになったりと愛着をもつことができた。
- ★子どもが自分の考えや思いを十分に相手にわかるように伝えることは、まだまだ十分ではない。子どもの姿をよく観察し、状況と内面を理解して子ども同士をつなぎ支える援助が必要である。



## 実践 2 児童の内面的資質を高める指導方法の工夫



湖南省立菩提寺小学校 <<https://bodaiji-el.konan.andteacher.jp>> (令和4年4月より新ホームページ)

### 研究主題 豊かな心を持ち、自己の生き方について考えることができる子どもの育成 ～ ねらいに迫る対話を通して考えを深め、子ども同士のつながりを育む ～

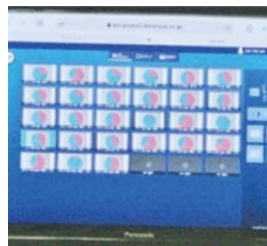
「考え、対話し、議論する道徳授業」の研究に取り組み、5年目を迎えた。子どもたちが本音で語り合える集団づくりをベースに、対話を通して多面的・多角的な見方へと発展させる指導の推進や、子ども自身が考え続け、実生活でも実践する意欲を育てる授業づくりを中心として研究を推進した。

#### 取組 1 思考ツール、ICTを活用した深い学びへつなげる対話の工夫

思考ツールで心の変化を可視化



立場を明確にし、活発な話し合いにつなげる

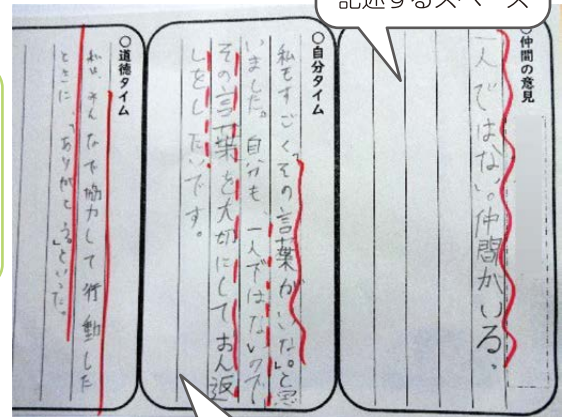


他者の考えを  
記述するスペース

#### 取組 2 発展的思考を促す

道徳ノートの  
記述内容の評価

- 自分の生活や体験からの思考 → 1本線
- 他者の思考を踏まえた思考・振り返り → 波線
- これからの自分の  
生き方に触れた思考・振り返り → 点線



#### 取組 3 道徳科の学習を実生活につなぐ



学習のあしあと  
「道徳コーナー」



道徳科の学習時間に実生活を  
振り返る「自分タイム」や1週  
間後に振り返りを行う「道徳タ  
イム」の設定

実生活から価値に迫る導入・終末

### 成果と課題 (○成果・★課題)

- 振り返りの活動を充実させることで、道徳科での学習を普段の生活とつなげて考えたり、友だちとの関わりについて考えたりするなど、相手の立場に立った思考ができる児童が増えた。
- 自分の考えを話したり、他者の思いを聴いたりする学び合いによる授業の充実が見られた。
- ★教師が明確な意図や目的をもって対話を仕組むこと、発言を他の児童へつなぐための働きかけをしていくことなど、子どもの考えを深めるための指導方法についてさらに研究を深めていきたい。

## 実践3 ねらいに応じた多様な指導方法の工夫

高島市立マキノ中学校

<<http://www.city.takashima.shiga.jp/makino-jhs/>>

高島市立マキノ東小学校

<<http://www.scl.city.takashima.shiga.jp/makino-ees/>>

高島市立マキノ西小学校

<<http://www.scl.city.takashima.shiga.jp/makino-wes/>>

高島市立マキノ南小学校

<<http://www.scl.city.takashima.shiga.jp/makino-ses/>>



マキノ中



マキノ東小



マキノ西小



マキノ南小

### 研究主題 新しい自分に出会う「特別の教科 道徳」の在り方

～個の考えを豊かに引き出す発問、個の考えを深める対話の在り方を探る～

マキノ中学校区では、新たな発見や気づきを生み出し、自分の生き方についての考えを深めるため、「考え、議論する道徳」への授業改善を試みた。特に、発問の工夫に焦点をあてた研究を進め、自分の思いを伝えることや物事を多面的・多角的に捉えること、他を理解し尊重することができる子どもの育成を目指した。

### 取組1 縦のつながりを軸にした授業実践・授業交流の充実

高島市が推進している小中一貫教育の実践経験を基盤に、マキノ中学校区では園から小学校、中学校までの縦のつながりを軸とする教育活動を行ってきた。道徳科の授業実践では、「園、小1・2年部会」、「小3・4年部会」、「小5・6年、中1年部会」、「中2・3年部会」の4つの部会を設置し、部会内で公開授業の機会を定期的に設けた。

#### 【園、小1・2年部会】

主に中心発問において「役割演技」を取り入れている。教師が児童にインタビューするという形で行うことにより、考えさせたいことを引き出すことができた。

また、園の先生が授業研究会に参加することにより、発達段階に応じた学習手法を確認することができた。



#### 【小3・4年部会】

心情メーターを利用して、「心の見える化」に取り組んでいる。『まどガラスと魚』の授業では「あやまらない」を水色で、「あやまりたい」をピンクで黑板に示して、心の動きを表した。

可視化することにより、友だちの考えを知り、自分の考えを見直す一助となった。



#### 【小5・6年、中1年部会】

子どもの実態に応じた発問や投げかける言葉にこだわり、授業改善に取り組んだ。

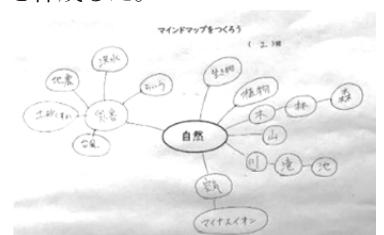
より話し合いが深められるよう、ロールプレイや心のシーソーなど様々な手立てを取り入れ、自分事として捉えられるように工夫を重ねてきた。



#### 【中2・3年部会】

ペアやグループの話し合い活動を積極的に取り入れた。『樹齢七千年の杉』（主題名：自然の偉大さ）では、まず自然に対するイメージをグループで話し、マインドマップを作成した。

キーワードから発想を広げることにより、友だちの思考の背景を知ることができた。



【マキノ東小学校】

「道徳掲示版」

1年生から6年生までの道徳科の授業の足跡を一か所にまとめて掲示している。教員が指導について交流したり、児童が他学年の学習やワークシートを見て学んだりする掲示版となるよう工夫した。



【マキノ南小学校】


「ICTの活用」

事前読みをし、自分の考えや主人公の思いなどを学習支援ソフトのワークシートに書き、導入で活用した。また、アンケート機能を活用することで子どもたちの考えが明確になった。

「ふりかえり名人シート」は、授業の振り返りに活用し、お互いの考えを伝え合うための有効なツールとなった。

ふり返し  
私がこの勉強をして、人との関わりで大切なことは、相手を許す、気持ちや相手の気持ちなどを考えたりすることが大事なんだなと思いました。私は、時々相手の気持ちを考えずに行動してしまっただけだったので、これからはしっかりとこの勉強を思い出しながら、行動したいと思いました。

教材名 すれちがい

よし子 

日記を読んで、えり子さんに対して思  
なんで来ないの？一緒に約束したじ  
電話ぐらいしてくれたっていいじゃない  
破るなんてありえない！もういい！も  
たくない！・・・・・・・・でも  
ろう？なんかあったのかな？

人との関わりで何を大切にしたらよいか  
しっかり考えることができましたね。

①しっかり考えた 【④ 3 2 1】  
②新しく気づいたことがあった 【④ 3 2 1】  
③これから大切にしたいことがわかった 【④ 3 2 1】

【マキノ西小学校】

「板書の工夫」

ネームプレートを活用することで、友だちの様々な考えに気付いたり、自分の考えを深めたりできるよう工夫した。



心情の葛藤や立場の違いを、矢印などを使って比較したり、強調したりすることで思考を深める手立てとした。

【マキノ中学校】

「心情スケール」

『二通の手紙』の授業では、「動物園に入れる」立場は青、「入れない」立場はピンクを使って意思表示をした。工夫をしたことにより、お互いの意見が視覚的に実感でき、対話を深めるための有効な手立てとなった。



成果と課題 (○成果・★課題)

- マキノ中学校区がこれまでも取り組んできた園小中一貫教育を基盤として、めざす子ども像の実現のために道徳教育・道徳的活動を充実させようと試みた。園小中間の交流により、従来の手法・考え方・視点が新しくなり、より改善を図ることができた。
- 授業者は時間コントロールを以前より意識し、子どもが中心発問で深く考え、周囲と意見交流を行えるような授業を展開するようになった。
- ★子どもに、ねらいとする道徳的価値に対して、自分はどのように感じるか・考えるかを深く追究させたい。さらに、自分とは異なる意見に向き合い、多様な価値観を認識するために、授業者はどのような発問をしていくかについて継続して研修していくことが必要である。

## 実践 4 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実の工夫

草津市立玉川小学校 <<http://www.tamagawa-p.skcedu.jp/>>



### 研究主題

## 対話を通して、仲間とともに考えを深め、 自己に生かそうとする子どもを育む道徳科の授業

一昨年度より校内研究として NEW 草津型アクティブラーニングの授業形態をベースとして、授業改善に取り組んできた。「課題」と「振り返り」、「対話」による考えの深まりを中心に、子どもたちが主体的に学習に取り組み、解決する力を育めるようにしてきた。本年度はこれまでの研究を基盤として、道徳科を窓口として「対話を通して、仲間とともに考えを深め、自己に生かそうとする子どもの育成」を目指し授業改善を進めた。

### 取組 1

## 道徳科の授業実践を進める体制づくり

校内研究推進委員会の組織の中に、「道徳推進リーダー会」を設け、道徳教育推進教師を中心に各学年の道徳推進リーダーが、学校教育全体を通して取り組む道徳教育のあり方や指導方法、授業づくりについて話し合い、全職員に周知を図った。学年会では、道徳推進リーダーを中心に、学習のねらいにせまるための発問や課題の設定について協議したり、構造的な板書づくりのための掲示物を準備したりすることで、授業づくりを行った。



▲リーダー会の様子



▲道徳教育研修会



▲ICTを取り入れた授業



▲役割演技を取り入れた授業

### 取組 2

## 道徳教育の環境整備

道徳推進リーダーを中心に、各学年の学習の足跡を残すために、3つの掲示コーナーを設置した。子どもだけでなく教職員や地域の方々にも道徳科の学習に対して意識付けができた。



▲道徳掲示板（職員室前廊下）



▲道徳教育別葉（職員室内）



▲道徳の木（教室内）

## 成果と課題（○成果・★課題）

○教師が授業づくりを行う上で、学習のねらいや道徳的価値理解を明確化することで、何について考えを深めるのか、新しい気付きはどんなことか、ということが教師にも子どもたちにも分かりやすくなった。

★話し合いの場の設定だけでなく、対話を活性化するための発問の精選や問い返しを高めていきたい。



研究主題 仲間とともに考え・気付き・行動する力を育てる

～ 生徒の心に響く道徳教育の創造 ～

本校の生徒には、素直で人なつっこく、自分の暮らす地域に愛着をもつ生徒がたくさんいる一方で、周囲の目を気にする生徒も多くいる。日常の学習活動や学校生活の中でこそ「主体的に考え、判断する力」を培い、「互いの考えを感じ合い、伝え合うことができる」生徒を育てていきたいと教師や地域の願いを込めて研究主題を設定した。

取組 1 「自分事」にするための教具等の効果的な活用

問題解決的な学習を行う上で大切だと考えるのは、目の前に提示された課題を「自分事」として受け止め、「自分ならどうするか」と考えられるようにすることであると考えた。そこで、生徒が自分事として捉えられるように、自分の考えを意思表示し、その意見をもとにペアトークや4人トーク等で話し合いを深める活動を実践してきた。相手に伝える・語り合うなど、他者との交流場面を設定することで、考えの根底にある“自分の思い”を課題に対して多面的・多角的に考えを深めることができた。

《手法》

- ・ねらいに沿った事前アンケートの実施
- ・1人1台タブレット端末の活用（スタンプ機能など）
- ・付箋紙を活用したKJ法による話し合い
- ・ハートカードの活用  
(自分の気持ちの揺れ動きをハートの割合で示す)



取組 2 「あすなる」を用いた振り返りの蓄積

本校では、本時のねらいを「めあて」として明示し、授業の終末でめあてに則した振り返りを行っている。その振り返りとして利用しているのが「あすなる」である。学習指導要領の解説編で述べられている道徳の授業の視点を、京都産業大学教授の柴原弘志先生に御指導いただき「Rainbow道徳」として生徒に明示している。

あすなるでは、「Rainbow 道徳」をもとに道徳の時間で考えたことをめあてに沿って振り返り、1年間蓄積した。1年間蓄積することにより、生徒は自己の成長を感じることができ、さらに「よりよく生きよう」とする態度を育てることができた。

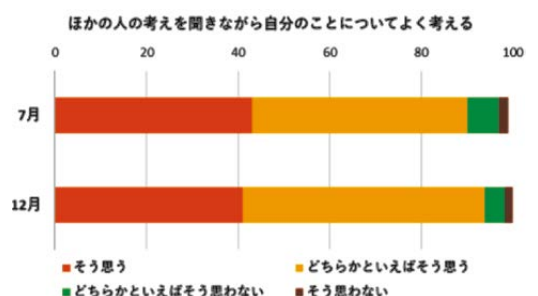
あすなる（左側がRainbow道徳の観点）

あすなる ～明日なりたい自分を考える～		7月7日(水)曜日
第9回	教材名 家族決闘中	見つけた！感じた！考えた！… ～今日のわたしの道徳TIME～
あてはまる項目にすべて○をしよう		
いろいろな見方で「なぜ・どうして」を考えた	R1	自分とちがう立場・感じ方・考え方を大事にできた
考えを深め、広げるのに友だちの考えが役に立った	R2	話し合いを生かして、自分の考えを深めた(広げた)
今自分は「どうだろう」と考えた	R3	今までの自分は「こうだったな」などと振り返った
「もし自分ならばどうするだろう」などと考えた	R4	自分は「こうしたい」「こうなりたい」と考えた
今までの自分は「こうだったな」などと振り返った	R5	
自分は「こうしたい」「こうなりたい」と考えた	R6	
	R7	

成果と課題 (○成果・★課題)

- 生徒の意識調査「道徳では自分の気持ちを話したり、書いたりしている」の質問に、7月より12月の方が肯定的な回答が増えた。
- 「あすなる」を用いて生徒が自分の考えの変化や成長につなげる様子がより多く見られるようになった。
- ★生徒一人ひとりに応じた支援をさらに行っていく。

生徒への質問紙調査の結果



## 実践 6 ICT機器を効果的に活用した指導の工夫



湖南市立甲西北中学校 <<https://koseikita-jh.konan.andteacher.jp>> (令和4年4月より新ホームページ)

### 研究主題 人との関わりを大切にし、共感する力や豊かな心を持つ生徒の育成 ～考え、対話し、議論する道徳を通して～

本校では、導入で話に引き込むように事前アンケートをグラフ化して提示したり、終末に余韻をもって締めくくるとともに動画を使ったりと、ICT機器の活用にも力を入れてきた。今年度、1人1台タブレットが実現したことにより、さらに効果的な活用への工夫を進めた。また、数年前から「学び合い」に取り組み、対話やグループワークの時間を重視してきた。他者の考えを傾聴して受け止める場を設け、多様な考え方・感じ方に出会い、違いを尊重し合える集団を目指した。

#### 取組 1 ICT機器の効果的な活用



タブレットで撮影した1学期の板書を提示し、既習の内容を振り返る。

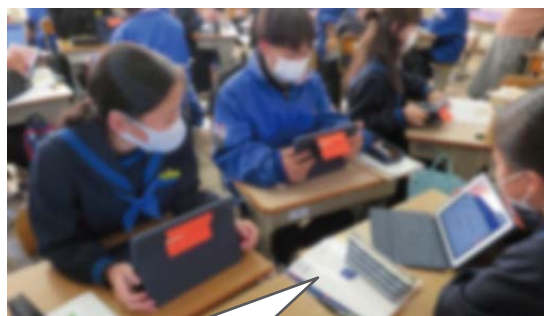


葛藤場面で心の状態を示すグラフを動かし、視覚に訴える形で指導に生かす。

#### 取組 2 多様な考えに触れる学び合い



他の人の話を聞いたり自分の考えを伝えたりする機会を増やすことで、課題を自分事として捉えやすくなる。



話し合いの場面で自分の意見を書き込んだカードを全員で共有して意見交流する。

#### 成果と課題 (○成果・★課題)

- 「学び合い」の土壌が育まれており、生徒は自分の思いを率直に述べ合える。また、他の人の意見が一目でわかり、その場ですぐに意見の共有ができるというICT機器の利点をうまく活用している授業が増えてきた。
- 導入や終末でのICT機器の活用も、担任同士で情報交換しながら効果をあげることができた。
- ★考えがどれだけ深まっているのかという部分では課題は残る。方法論で終わることなく、発問の仕方や意見を交流するときの教師の働きかけ方など、さらに研究を進める必要がある。

## 実践 7 体験を生かした指導の工夫

滋賀県立大津高等学校 <<http://www.ohtsu-h.shiga-ec.ed.jp>>



### 研究主題 人間としての在り方生き方について体験を通じて育む教育の深化をめざして

●これまでの経過 平成23～25年度 道徳教育総合支援事業

平成26～令和元年度・令和3年度

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業推進校

学校教育を通じた仲間づくりや、人権学習、総合的な学習（探究）の時間等での体験的な学習を通して、人としての在り方生き方を考えさせる取組に力を入れ、生徒の道徳的実践力や道徳性の育成を図った。

●今年度について

これまでの成果を踏まえて、各活動に関して道徳教育への意識を高めさせる取組を実践した。また、個々の取組を発展させるとともに、新しいシラバスをもとに道徳的視点を含んだ校内授業研究、公開授業を全教科で実施した。

#### 取組 1 授業研究の実践

教科横断的な小グループによる授業研究会や公開授業、外部講師を招いた職員研修会を実施した。

#### 取組 2 他者とのより良い関係の構築を目指す活動

##### ① 1分間スピーチ（1年生）

1年生は「高校生活をどう創造するか」というテーマで自分の考えや思いを語り、他者に対しての自己開示と他者の受容を行った。この活動により、相手の思いを汲み取り、自分の考えを的確に伝える難しさに気付くことができた。

##### ② コミュニケーション講座（1年生）

「よき社会人になるために」というテーマで講師を招き、様々なものの見方や考え方に触れ、視野を拡げた。

また、実社会の中で自己実現する方法について考える機会となった。

##### ③ 人権学習

1年生：障がい者とともに生きる  
（フィールドワークと  
事前事後学習）



（体験学習の様子）

13のコースを設定し、校内外で体験学習を実施した。障がい者に関わる課題について、生徒の理解と認識を促し、これからの社会の在り方について考えるきっかけとした。

2年生：在日コリアンとともに生きる  
（講演会と事前事後学習）

朝鮮初級学校長を講師に招き、在日コリアン問題への理解や多文化共生についての学びを深めた。

3年生：部落問題学習（講演会と事前事後学習）

NPO職員を講師に招き、誰もが暮らしやすい社会の在り方について考え、実現しようとする態度を養った。

#### 取組 3 社会の一員としての自覚をもち、自己実現を目指す実践

##### ① 主権者教育

18歳選挙講座「自分たちの理想を実現する政党づくり」を開催した。

##### ② 進路学習

自己理解レポートの作成

自分の適性や自分の力を発揮できる場を探した。

#### 取組 4 地域貢献・交流活動の実施 学校家庭クラブ活動

##### ・商店街ファッションショー

地元商店街ににぎわいを生み出すため、ファッションショーを実施した。



（お楽しみ会の様子）

##### ・近隣幼稚園児を招いてのお楽しみ会

平野幼稚園の園児を招いて、お楽しみ会を実施した。

##### ・地域の集會

「ひらのみらいづくりフォーラム」は家庭科学科の取組を発表予定。「HIRANO若者フォーラム」は中止。

#### 取組 5 誰もが輝ける場所のある集団づくり

学園祭のCIA（マスゲーム）では、クラス全員で一つの表現を作り上げる喜びを体験できた。



（CIAの様子）

#### 成果と課題（○成果・★課題）

○様々な教育活動を道徳教育の視点で整理し、教育活動全体の中に位置づけ工夫改善することで、道徳教育が着実に定着している。

★授業研究や教員研修をさらに活発に行い、道徳を意識した学校づくりを推進する。

# ALL草津で取り組む道徳教育

草津市教育委員会 <<http://www.city.kusatsu.shiga.jp/>>



草津市では、「くさつ ころみがき ころそだて」を合言葉にして、「特別の教科 道徳」の授業改善の充実を図ることや、家庭・地域との連携、豊かな出会いをする体験活動の推進を行っている。

コロナ禍の中でも、学校の特性を生かした体験活動を仕組んだり、教員を対象とした研修を充実させたり、家庭・地域へ啓発をすることで、「子どもの心に響く道徳教育」に取り組んできた。



## 豊かな体験活動の充実



「魚のゆりかご水田生き物観察会」「SDGsに関する学習」「落ち葉集め活動」「ゴールボール体験」等各学校の特性を生かした体験活動が行われた。



## 研修の充実



「道徳科のICT活用について」や、「考え、議論する道徳の指導に大切なこと」等について、模擬授業や講話を通して考える研修を行った。



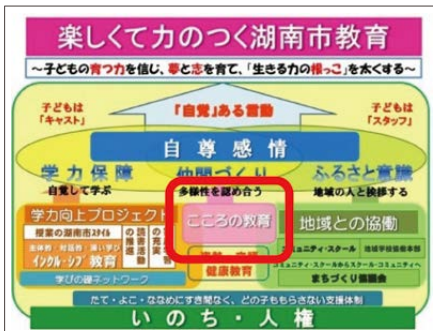
## 家庭・地域への啓発



草津市道徳教育推進協議会では、家庭・地域へポスターやチラシで道徳教育の啓発を行った。

# 道徳教育を要とした湖南省「こころの教育」の推進

湖南省教育委員会 <<https://www.city.shiga-konan.lg.jp/>>



湖南省では、「楽しくて力のつく湖南省教育」の実現を目指し、自尊感情を育むために「学力向上プロジェクトによる学力保障」、「こころの教育の推進による仲間づくり」、「地域との協働によるふるさと意識の醸成」を取組の三本柱として推進している。

「こころの教育」の要となる道徳教育では、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、3つのプロジェクトで市内へ取組の推進を図った。



▲ICTを効果的に活用した導入



▲地域の方と共同で植栽作業

### 心ひらく (授業づくり)

- ・「授業の湖南省スタイル」を意識した子ども主体の授業づくり
- ・学習意欲を高めたり対話を活性化させたりするために ICT を効果的に活用

### 心ひろがる (啓発活動)

- ・「湖南省教育だより」で推進校の取組について地域・市内教職員へ発信

### 心ひびきあう (学校・地域連携)

- ・こころの教育推進協議会で幅広く意見を求め道徳教育の在り方を検討
- ・地域と連携した道徳実践の場の保障および自尊感情の育成



# チーム高島で取り組む『つながり響き合う道德教育』



高島市教育委員会 <<http://www.city.takashima.lg.jp/>>

高島市では、「一人ひとりが高い志をもち、生涯にわたって学び、学んだことを人々のため、社会のために役立てようと行動するひとを育てる『志の教育』」を学校教育の基本理念としている。現在、縦をつなぐ「小中一貫教育」、横をつなぐ「地域とともにある学校づくり」、未来をつなぐ「小中高一貫したキャリア教育」を推進し、高島の教育を『つながり響き合う教育』へと高める教育活動を展開している。

小中一貫した道德教育の充実を図るため、大学教授からの指導助言や地域の方々の協力などを得て、小中のつながりある道德科の授業づくりに取り組んでいる。

## 【挑む（授業改善）】

- ・自分事として深く考えられる発問や振り返りの工夫
- ・道德教育推進教師によるOJT実践の場としての若手教員による道德科の研究授業
- ・ICT機器を効果的に活用した授業実践



<ICT機器の活用>

## 【つながる（連携強化）】

- ・成長段階を踏まえた学年をまたぐ授業のつながり
- ・教科等横断的な授業のつながり
- ・保護者、地域への道德科の授業公開
- ・小中学校教員による共同授業研究
- ・地域教材の活用

学年	1	2	3	4	5	6
道徳科	道徳科	道徳科	道徳科	道徳科	道徳科	道徳科
単元	道徳科	道徳科	道徳科	道徳科	道徳科	道徳科
単元	道徳科	道徳科	道徳科	道徳科	道徳科	道徳科
単元	道徳科	道徳科	道徳科	道徳科	道徳科	道徳科

<小中一貫したカリキュラム>

## 【響き合う（深め、広める）】

- ・講師を招聘した夏季道德教育研修講座、道德教育研修会等の開催
- ・「研究所通信」による研究授業や研修内容の発信
- ・道德教育推進協議会の開催



<夏季道德教育研修講座>

# 家庭の教育力の向上が、子どもたちへの道德教育にもつながることを意識しよう



滋賀県PTA連絡協議会 <<http://www.shiga-pta.jp/>>

日頃より取り組まれているPTA活動には、子育て中における家庭教育力の向上を図る役割もあります。PTA事業・行事などの研修会などに参加する機会を通して、保護者が新たな気づきやきっかけを得ることが、家庭内における「道德教育」にもつながると考えています。

家庭教育では、習慣づけのような側面に加え、日常生活の様々な体験をもとに「道德教育」を進めることが大切です。家庭での体験と道徳の時間の学びがつながることで、「道德教育」が充実すると考えます。

また、地域社会では、社会のルールなど、これから生きていくために必要なことを子どもたちが身に付けることが大切です。地域の子どもたちへのあいさつや声掛けなどを通して、地域内の子どもたちは地域全体で育てていくという思いを地域や家庭、学校と共有することが大切です。長期的な観点からみても、地域活性化や治安の安定にもつながる流れになると思っています。



就学前の家庭教育から、子どもたちが健やかに、そして健全に育っていく過程には「道德教育」が大切であり、家庭内でも自然と身に付けられる環境が理想です。一保護者としても、PTA活動や地域活動への参加を行い、自身の意識も向上させることこそが重要であると考えています。

# 家庭でも、地域でも、みんなで。 暮らすこと、子育てすることをはぐくむ。

一般社団法人 暮らし育て組 <<https://kurashi-sodate.com/>>



古民家ひだまり学舎を拠点に、暮らしや子育てに関わる学びや語り合い、体験の機会をつくり、様々な人との交流、地域との関わり方に志をもつ人を応援する活動をしています。不安や孤立を予防し、「おたがいさま」のまなざしの中で、それぞれの家庭や地域で生き生きと暮らす親子を増やしたいと願っています。

## ◆思っていることを言える家庭づくりのために ～親の困り事やとまどいに寄り添う～



▲家族と家事のミニ講座

幅広い年齢層の保護者世代が参加する「家事の困り事」に焦点を当てた講座や相談で、背景にある「家族のライフサイクル」、「子どもの心の成長と親の関わりの変化」を考え、気づきを得る機会を作っています。ある中学生の母の片づけの悩みは思春期の息子との関わりに、幼児の母の家事の忙しさは子どもの自立心や自発性の話に繋がっていきました。「ベキ」ととらわれすぎず、安心して本音を話す、弱い私でもいいのだという受容からの学び場は親にも必要だと考えています。

## ◆地域学習での体験や対話を自分の日常を見つめるきっかけに

令和3年11月、地域学習の一環で、ひだまり学舎に竜王中学校1年生の4人を迎えました。様々な事業と思いを紹介し、「ひだまりごはん」のお客を迎える準備や盛り付け、配膳、調理スタッフの子どもの見守りなどを体験してもらいました。家でのお手伝いの話等も尋ねながら、暮らしと自分を見つめ、「楽しめる」「役立つ」と感じる機会になりました。



▲乳幼児の見守りと遊び

**感想** 「楽しかったのは掃除。いつもはそう思わないんだけど。」「毎日の家のことや子育てって大変そう。」「大変そうと思っていたけれど、楽しいんだと思った。」「おかずの盛り付けは思ったより時間もかかった。家で親がやってくれていることも大変なんだなと思った。帰ったら何かやってみようと思う。」「小さい子と遊ぶことはないから楽しかった。」「こういう場が自分の住んでいる所にあったら、めっちゃ行きます！」

# 自由な発想で自分のデザイン ～個性の尊重～

ワシダ農園 nature (ナチュレ) <<https://nature.hanatown.net/>>



「若年技能者人材育成支援等事業」の一環として滋賀県職業能力開発協会が実施している『ものづくりの魅力』講座（出前授業）では、県内の小中学校でフラワー装飾の体験を行っています。

フラワー装飾とは、アレンジメントの制作のことです。花材は同じでも、配置や挿し方で全く違ったアレンジメントが出来上がります。長さを活かしたり、色でまとめたり、花の種類でまとめたり自分の完成したアレンジメントを他の作品と比べると違ったものとなっています。それは個性であり、自分の表現です。それは人も同じで、それぞれに個性があります。同じものはひとつとしてないオンリーワンです。この体験を通して将来の仕事について考える機会にしてもらおうとともに、自分を認める、人を認めることを学ぶ場にしてもらいたいと考えています。



▲アレンジメント



▲膳所小学校



▲多羅尾小学校



▲水口小学校



▲テキスト

○ものづくり体験を通じてクラスの仲間との協力や認め合う心、将来を見据える機会になります。

（フラワー装飾以外に造園、宮大工、鋳造、板金、建築大工、畳、和菓子、洋菓子、建具など）

○高校派遣実習（デュアルシステム）、中学生チャレンジウィーク、小学校まちたんけんも受け入れています。

# 第1回道徳教育パワーアップ研究協議会

今年度より3年間で、県内全ての小・中学校の道徳教育推進教師を対象とした研修を実施しています。今年度、参加された先生方の学びをお伝えします。

## 実践発表

### 高島市立高島小学校

- ・小学校と中学校が連携して、道徳教育に取り組んでいる点が、素晴らしいと思った。
- ・道徳科の学びの足跡を教室等に掲示することで、子どもたちも教師も常に道徳を意識することができるので実践してみたい。
- ・心のシーソー、心のものさし、思いの矢印等のツールを使った心の「見える化」を通して、言葉だけでは伝えきれない心の揺れを表現できると思った。

### 草津市立新堂中学校

- ・道徳重点目標を決める際、学校だけでなく保護者や地域の方にもアンケートを取ることは大切だと思った。
- ・学年で道徳科の教材研究ができる時間を確保することから始めたいと思った。
- ・振り返りシート「あすなろ」のように、週1回の道徳科の学びの足跡が残るように取り組むことで、1年間の自分の考えの変化等にも気付くことができるので、よいと思った。

## 協議①

### 学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の取組について

学校の重点内容項目が「生命の尊さ」なので、年1回の道徳学習参観では、どの学年も「生命の尊さ」の授業を行います。

特別活動等の行事と道徳科の授業との関連を意識するため、各行事においても道徳科の内容項目を示しています。

我が校では、このような取組をしています



総合的な学習の中で「郷土学習」を進めています。地域の方を招いた学習も行っている縁もあり、道徳の授業でもゲストティーチャーとして来てくださっています。

道徳科の授業が担任まかせにならないように、個人が作成した教材や指導案、板書計画等を学校に残すことで、次年度も使えるようにしています。働き方改革にもつながっています。

人権教育に力を入れています。人権週間には、どの学年も同じ内容項目の学習を行い、前年度と今年度の学びを比べ、違いに気付かせるような声かけを行っています。

子どもの道徳性を養うためには、教師の授業力も大切です。週1回の学年会で必ず、今週の道徳の授業の進め方について確認するようにしています。

道徳科の授業とは別に、「ミニ道徳」として、身近な問題について考えたり、教師の体験を語ったりする時間を設けています。

## 協議②

### 「読み解く力」の視点を踏まえた道徳教育について

#### 1人1台端末を使用した実践事例

#### 【導入】

- ・アンケート機能を使うことで学級全体の考えを可視化する。
- ・教材に関わる画像や映像を示す。

#### 【授業全体を通して】

- ・別室で過ごしている子どもたちも授業に参加できる。
- ・発表が苦手な子どもも、1人1台端末に書き込むことで、表現ができる。

#### 【展開】

- ・心情円や心情メーター等に自分の考えを示して、全体交流につなげる。
- ・許すか許さないの2択や複数の立場から自分の意見に合うものを「選ぶ」ことをきっかけとして話し合いにつなげる。
- ・教材のイラストを1人1台端末に送り、イラストをもとに話し合う。

#### 【終末】

- ・振り返りをタブレットに書き込み、交流を行う。
- ・事後アンケートを実施し、事前と事後の変容を見取る。

道徳科の目標に示されている学習活動に着目し、より効果的に行われるようにするための「手段」としてICTを活用することが大切です。



# 認め励ます評価のための学習の見取りと指導の工夫

長浜市立湯田小学校 教諭 宮部 允良〔道德部会本部役員〕

## 1 はじめに

道德の時間には、道德的価値観を形成する上で必要な内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解することが必要である。そして、その道德的価値は大切であっても実現することができない人間の弱さも理解することや、道德的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではなく「多様」であることを前提として理解すること、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深めていくことが大切である。また、「友情」とは「仲良くする」だけでなく、「助け合う」、「高め合う」、「信頼する」ものなど、多様な考え方をすることも大切である。これらは、多面的・多角的な考え方だと言える。そのような多様な考えに触れるためには、まず児童一人ひとりが道德的価値を自分のこととして考えたり感じたりすることが必要になる。その後、他者と対話し、多面的・多角的に考える過程を経て、「今までの自分はどうだったかな。」と自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めていくことが大切である。

このように、多面的・多角的に考える学習展開を念頭に、指導方法を工夫しながら授業に取り組んできた。

## 2 多面的・多角的に考えさせる指導の工夫

### (1) 人間理解を促す

教材の主人公が、道德的価値の大切さに気付いていない行動を取ってしまっている時の気持ちを考えさせる。例えば、きまりを破ってしまおうとする主人公の気持ちを考えさせる。その後、その主人公のことをどう思うかをさらに問う。その時、主人公を批判的に見るのではなく、主人公の立たされた状況をしっかり理解させ、「主人公の気持ちも分かる。」、「自分にも似たような体験がある。」、「(道德的価値は)大切だけれど実現するのは難しい。」と共感して考えさせるようにする。批判すると、児童と主人公の間に距離ができてしまい、客観的な考えになってしまう。共感することで、自分事として考えさせることを大切にしている。

### (2) 他者理解を促す

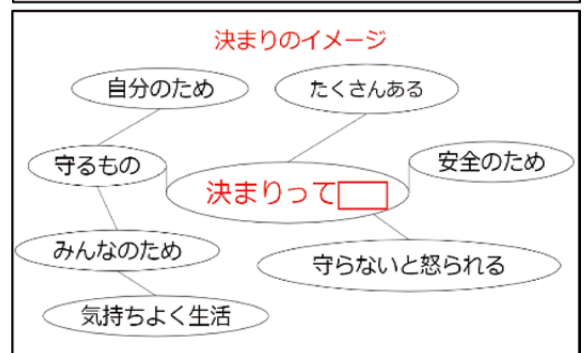
#### ①事前アンケート・イメージマップの活用

道德的価値に対する考えなどを、アンケートやイメージマップとして事前に描かせる。それを導入で画面に映し出し紹介することで、価値に対する自分の考えと、友だちの考えの共通点や相違点に気付かせ、ねらいとする価値に興味をもたせる。その後、学習テーマを示し、教材をもとに話し合う。対話的な学びを通して、物事を一面的に捉えるのではなく、子ども自らが、様々な視点から物事を理解できるようにする。また終末で、事前に描いたイメージマップを書き加えさせることで、道德的価値に対する自分の思考の広がり気付かせる。

#### ②考えの見える化を図る

主人公が葛藤している場面の気持ちを考えたり、主人公の行動についてどう思うか二項対立で考えたりする場面などで、ネームプレートやタブレットを使い、考えを見える化して交流する。そうすることで友だちがどのような考えをもっているか、自分とは

どんな決まりがありますか		
お家	学校	社会
ゲームは1時間 18時までに帰る 宿題をしてから遊ぶ 帰ったら手を洗う	ろうかをは歩く スリッパをそろえる マスクをつける 時間を守る 名ふだをつける	赤信号は止まる 横断歩道をわたる 自転車に乗る時は ヘルメットをかぶる マスクをつける スーパーや病院で 走らない



<道德アンケート、イメージマップ提示>

どのように違うのか気付くことができる。それが、さらに対話したいという思いにつながる。タブレットを活用した実践では、葛藤する主人公の立場に立って考えさせ、どちらの思いがどれくらい強いのか、4色のカードで表現させた。意見を教師のタブレットに送信させ、全員の意見をスクリーンに映すことで、考えを共有することができた。また、全員の意見が手元に集まるので、教師は意図的指名をすることができた。

門と通っても だれも困ら ないだろう。	雨にぬれたら がせをなく、理由が あるから通せ。	この様の言うことが なぜ聞けないのだ 早く通らせろ。	どうして通してくれ ないんだ。通さない 方がいいのかな。	1回くらい 通すもいいだろう
どの様はみんなの お守りになって 守らないといけないの やぶてはいいんだ	きまりには意味があるから みんなにいいだろう。どうして 門番はそこまで 通してくれないだろう。	理由があるなら 自分が守らなれた みんなも守れない から、がまんしよう。	自分が守らなれた みんなも守れない から、がまんしよう。	どの様だから 通すもいい
自分だけのことを 考えてはいけ ないのかな。	通りたいけれど どの様をきまりは やぶてはいいんだ	通りたいけれど 自分が守らないと いけないのかな。	どの様だから 通すはいいか ないかな。	雨なんだから しつたないや ないかな。
きまりは絶対 守らないといけない から通さない方がいい	雨だから 今回だけ 通りたい。	きまりは かんたんやぶては いけないんだ。	きまりを作った 理由があるから がまんした方がいい いけないのかな。	どの様でも きまりを守らな いけないのかな。

<意見を交流したタブレットの画面>



<二項対立で意見をまとめた板書>

### ③ペア・グループでの交流

ペアやグループで交流することで、様々な意見に触れることができ、「友だちはこんなふう考えているんだ。」と他者理解を行うことができる。合意形成するための対話ではないので、意見をまとめることはしない。自分と友だちの意見の共通点や相違点に気付かせるようにする。



<ペア交流の様子>



<グループ交流の様子>

## 3 おわりに

今回実践して感じたことは、考えを見える化したり、二項対立で問う発問をしたりすると、「友だちの意見を聞きたい。」という思いが高まり、活発に対話することができたことである。しかし、その時に気をつけたいことがある。それは、「主人公がしたことは本当にいけなかったのか。」というような発問である。このような発問は、子どもが予想していない発問であり、活発な対話につながる。また、道徳的価値を、多面的・多角的に考えることにつながる。しかし、多様な意見が出て、この発問では他人事になってしまうおそれがある。主人公の立場に共感するのではなく、客観的に見て考えている。学習指導要領には多面的・多角的に考える指導の例として「二つの概念が互いに矛盾、対立しているという二項対立の物事を取り扱う」と記されているが、「道徳的諸価値は、道徳的価値自体を観念的に理解するのではなく…」とも記されている。例えば、発言が少ない学習であっても、教材をきっかけに道徳的価値について子ども達がじっくり考え、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めていけば、道徳性を養う授業と言えるだろう。逆に、「こんな主人公はだめだ。」「主人公と自分は関係ない。」と他人事として考えていては、どれだけ活発に意見が出て、道徳性を養うよい授業とは言えない。手段と目的を間違えることなく、道徳性を養う学習になっているか意識しながら、これからも道徳教育を実践していきたい。

# 学校・家庭・地域社会で豊かな心を育む（道徳教育推進協議会）

「道徳教育」は学校だけではなく、企業や地域なども子どもたちに対する様々な取組を行っていることが分かった。それぞれの分野が、子どもたちの健全な育成に関わっている取組を見ていると、社会で子どもたちを育てていると感じることができた。

1人1台端末の活用により、発言が苦手な子どもも自分の考えを発信することができるなど、メリットもある一方で、画面を見る時間が増えていることが気になる。顔を突き合わせて、語り合う時間も大切にしていきたい。

子どもたちは地域で育てるという視点をもつと、中学校区で目指す子ども像を共有して「道徳教育」を行うことが必要になってくる。保幼小中の一貫した教育を進めていきたい。

地域の方が、ボランティア等で学校に来てくださることが当たり前になってきている。学校規模に関わらず、様々な方と関わる機会が増えていることも、「道徳教育」に有効であると思う。

高校は道徳の授業がないため、どの教育活動でも「道徳教育」の視点を忘れずに取り組むようにしている。高校生も地域でボランティア活動をしたり、小中学校へ出向いたり、企業との取組等を行う中で、「誰かのために」という意識が芽生え自尊感情の向上にもつながっている。

道徳科の授業で「対話」が大切にされていることがとてもよいと思う。自分の意見が言えること、そして、その意見が受け入れられることで、自尊感情も高まると思う。

知識を得る学習はもちろん大切だけれど、人としてどう生きるかなど、心の成長を促したり、人間性を育てたりする「道徳教育」は、やはり教育の肝であると思う。

道徳教育は生活に密着している。生まれてから今までに出会った人たちとの関わりの中で、染み込んでいくようなものだ。子どもたちだけでなく、大人も学び成長し続けることが大切だと思う。

## 委員の皆さんの発言より

令和3年度 滋賀県道徳教育推進協議会委員一覧（敬称略）

	氏名	所属等
会長	押谷 由夫	武庫川女子大学教育研究所 教授
副会長	小田 隆司	滋賀県立大津高等学校 校長
委員	鷺田 新介	ワシダ農園 nature（ナチュレ） 代表
委員	吉田 尚子	一般社団法人 暮らし育て組 理事
委員	松山 敦司	滋賀県PTA連絡協議会 理事
委員	高山 千穂	東近江市立あかね幼稚園 園長 滋賀県国公立幼稚園・こども園長会 副会長
委員	岡崎 美紀	草津市教育委員会事務局学校教育課 専門員
委員	中川 啓喜	湖南市教育委員会教育研究所 研究員
委員	谷口 あかね	高島市教育委員会事務局学校教育課 主監
委員	川邊 晋	湖南市立甲西北中学校 校長
委員	今村 増弘	愛荘町立秦荘東小学校 校長 滋賀県小学校教育研究会道徳部会 会長



# 【資料】滋賀県道徳教材「近江の心」 (小学校版・中学校版)

道徳科において、主たる教材は教科書用図書ですが、道徳教育の特性に照らし合わせて考えると、各地域に根差した郷土資料など、多様な教材を併せて活用することも重要です。各市町の郷土資料と同様に「近江の心」も参考にしながら年間指導計画を作成しましょう。



## 小学校版 (高学年対象)



読み物教材	内容項目
馬方又左衛門	A 正直, 誠実
この子らを世の光に	B 親切, 思いやり
雨森芳洲と真心のつきあい	C 国際理解, 国際親善
受け継がれる思い～山中万吉～	C 勤労, 公共の精神
生き物の宝庫・滋賀県	D 自然愛護

## 中学校版



読み物教材	内容項目
埋れ木	A 希望と勇気, 克己と強い意志
藤樹先生と了佐	B 相互理解, 寛容
近江商人の矜持－初代伊藤忠兵衛－	C 社会参画, 公共の精神
福祉に生きる－田村一二－	C 公正, 公平, 社会正義
琵琶湖とともに	D 自然愛護

○滋賀県が誇る偉人や自然を題材にした読み物教材です。

○滋賀県教育委員会ホームページに、読み物教材、指導略案、板書計画、ワークシートを掲載しています。ダウンロードしてお使いください。



学校、地域の実態に応じて、積極的な活用を期待しています！



滋賀県教育委員会ホームページ



本冊子並びに過去の振興だより  
(平成27年度～令和元年度)



滋賀県総合教育センター  
ホームページ

令和3年度道徳教育振興だより  
滋賀の子どもたちにこころの元気を  
道徳科を要とした道徳教育の充実  
令和4年3月発行

発行：滋賀県教育委員会  
〒520-8577  
大津市京町四丁目1-1